

## 県内水田土壌 40 年の変化～施肥管理と土壌養分の実態～

## 【概要】

農業研究センターでは、昭和 54 年度から 5 年おきに県内のほぼ同じ水田ほ場で「土壌調査」を行っています。今回は、最新 9 巡目(令和元～5 年)のデータを加えて 40 年間の変化をとりまとめました。

- 1 9 巡目調査の結果、堆肥施用農家は約 3 割に減少する一方、稲わら施用農家は 9 割に迫っています(表)。
- 2 9 巡目では、全量基肥一回施肥体系が 62% を占めています。また、61% の地点では施肥から 7 日以内に入水していますが、27% は 15 日以上期間が空いています(図 1)。
- 3 水田土壌のリン酸は、適正範囲内の地点が増えています(図 2)。
- 4 水田土壌のカリは、過剰地点が減少・不足地点が増加しており、低水準化が進んでいます(図 2)。
- 5 この調査結果は、県内全体の傾向を示すものです。実際に土壌化学性を評価する際は、各ほ場の土壌診断のデータに基づいて行ってください。

## 【試験データ等】

表 有機物施用状況

調査巡	調査期間	調査戸数(戸)	農家割合(%)		堆肥施用量(kg/10a)
			堆肥	稲わら	
1 巡目	S54～S58	303	68.5	20.7	1385
2 巡目	S59～S63	312	66.7	22.6	1574
3 巡目	H1～H5	311	59.1	32.7	1724
4 巡目	H6～H10	310	41.7	46.3	1655
5 巡目	H11～H15	68	41.2	58.8	1473
6 巡目	H16～H20	66	42.4	65.2	1319
7 巡目	H21～H25	66	36.4	74.2	1193
8 巡目	H26～H30	67	28.4	83.3	1140
9 巡目	R1～R5	64	32.8	87.5	993

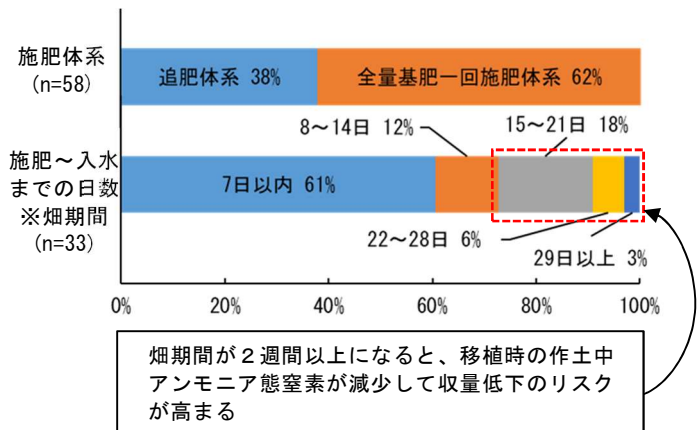


図 1 施肥方法等の実態(9 巡目)

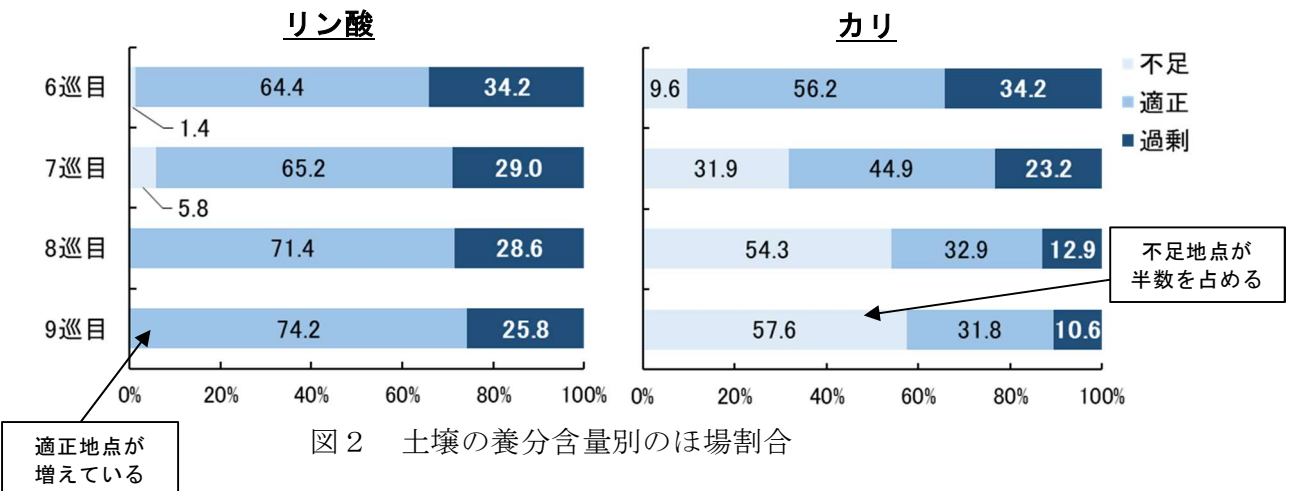


図 2 土壌の養分含量別のほ場割合

【令和 5 年度成果】 県内水田土壌 40 年間の施肥管理と化学性の変化 (R5-指-10)